

一斉に走り出す参加者



電気自動車の省エネレース「ワールド・エコノ・ムーブ(WEM)」本戦が5日、大潟村のソーラーボートラインで開かれた。総合成績で東郷アヒルエコパレーシング(愛知県進市)の「Pursuiter」が3連覇を飾った。

電気自動車 省エネ競い疾走

大潟村「ワールド・エコノ・ムーブ」

鉛バッテリーで走る「鉛蓄電池部門」には21台(うちジュニアクラス6台)が出場。1周6.5kmのコースを周回し、2時間で走った距離を競った。

ばね製造会社のクラブチームである東郷アヒルエコパレーシングは走行距離約81kmをマーク。2位に10km近い差をつけ、この部門通算7度目の優勝を果たした。代表の仲間孝晃さんは「昨年と同じドライバーを起用したので、経験を生かしてくれた。スピードをうまく保って走っていた」と喜んでいた。

このほか、「遠隔操作部門」と「ライト部門」も行われ、それぞれ1台がエントリー。遠隔操作部門は今年初めて実施され、四国職業能力開発大学校(香川県丸亀市)の「チームさめぎ002」が挑戦した。同チームの甲斐輝斗さん(4年)は「バッテリー消費に加え、通信状況を考慮するのにやや苦戦した」と振り返った。

大会は村やNPO法人クリーン・エナジー・アライアンス(大潟村)などで行われる組織委員会(会長・高橋浩人村長)の主権で31回目。

組織委の山本久博副会長は「現在エンジニアとして働く過去の出場者たちが、運営をボランティアで支えてくれて大会が成り立っている。若手エンジニアを育てることがこの大会のコンセプト。これからも長く

東郷(愛知)が3連覇飾る



総合成績で3連覇を果たした東郷アヒルエコパレーシング

続けていく」と話した。(阿部拓郎) このほかの上位入賞チームと県勢の結果は次の通り。

【総合成績】

②東海大学ソーラーカーチーム(神奈川県平塚市) ③チーム「ヨイショット」ミツバ(群馬県桐生市) ⑧秋田工業高校レーシング部1(秋田市) ⑮SEIM(由利本荘市) ⑯秋田高専(秋田市) ⑰秋田工業高校レーシング部2(同)

【ライト部門】

①小野塚レーシングZ(群馬県高崎市)